



# SALVATIONIST

# とぎのこえ

2025年標語「信仰の遺産の上に築く」(テモテへの手紙二1章14節)



二〇二五年九月十五日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行

初秋号

広報版

2025

September-October

No.2894

もくじ


- メッセージ  
生き生きとした希望  
少佐 添田 美和 ……3
- (連載) 聖潔の流れに立つ 第40回  
ジョン・ウェスレーの聖潔  
一心うち燃えて—  
少佐 丸畑 幸夫 ……4
- 集会報告  
創立160周年記念コンサート  
士官候補生夏期訓練任命集会 ……5
- ご報告 救世軍ブース記念病院の事業譲渡について  
医療部 ……6、7
- 女性部ラリー  
北海道連隊 ……7
- 集会報告  
西日本地区ミュージックキャンプ ……8
- 各地のニュース !!  
月島小隊、札幌小隊 ……8  
京橋小隊、前橋小隊、証言 ……9  
恵泉ホーム、ケアハウスいずみ、天満小隊 ……10
- YP (青少年部)・ファミリーニュース  
東京東海道連隊、天満小隊 ……11
- 各地のニュース !!  
恵みの家、大森小隊 ……12
- 〈連載・第14回〉  
各地の小隊から 天満小隊 ……12
- 〈連載・第34回〉  
神の呼びかけ～神の民となるために～  
(13) 家族への呼びかけ ……13
- 救世軍見解表明  
社会道徳に対する救世軍の立場  
第18回「救世軍と国家」 ……14
- 各地のニュース !!  
米国南部軍国音楽キャンプ、証言 ……14
- 救世軍広報 ……15
- 各地のニュース !!  
社会福祉部・医療部、任官五年以内士官講習会 ……15
- 米国南部軍国音楽キャンプに参加して  
証言 ……16

2025年 救世軍標語  
「信仰の遺産の上に築く」  
「あなたにゆだねられている良いものを、わたしたちの内に住まわれる聖霊によって守りなさい。」  
テモテへの手紙二 1章 14節

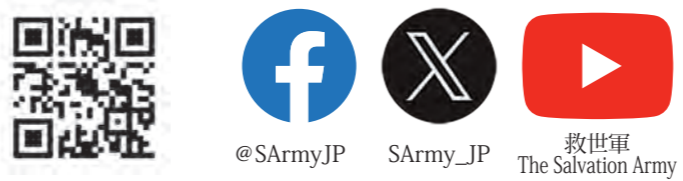
リンドン・バッキンガム大将 及び 指揮  
ブロンウィン・バッキンガム中將

**全国大会**  
2025年11月21日～23日

テーマ「新しい地平線へ」  
(イザヤ書 43章 19節)



11月21日(金) 全国士官会 会場 山室軍平記念ホール  
11月22日(土) 午後2時  
バンドレイジング・チャリティー・コンサート (一般公開・事前申込制) 会場 中央区立日本橋公会堂  
11月23日(日・祝)  
午前10時 大会聖別会 (一般公開) 会場 日本教育会館9階 喜山倶楽部  
午後12時30分 大会昼食会 (申込制) 会場 日本教育会館9階 喜山倶楽部  
午後3時 大会賛美集会 (救世軍限定公開) 賛美ゲスト・長沢崇史牧師、メッセージ・大将 会場 山室軍平記念ホール  
午後6時 ユース・ディナー・パーティー (申込制) 会場 山室軍平記念ホール



---きりとり---

『とぎのこえ』購読を申し込みます。  
(1年分1140円。税込、送料別)

キリスト教についてもっと知りたいです。

ご氏名 \_\_\_\_\_

ご住所 \_\_\_\_\_

表紙の写真：米国南部軍国音楽キャンプに参加した青年たち。会場のアズベリー大学の講堂前で。

メッセージ

生き生きとした希望

少佐 添田 美和

ペトロの手紙一 一章三〜九節には、この世にあって悲しみ、苦しんでいる人を励ます希望の言葉、信仰者に与えられている希望、喜びが述べられています。

ペトロは、現在のトルコ北部にいた離散した信仰者へ、励ましと勧めを込めてこの手紙を書きました。当時、クリスチャンに対する大迫害が起こっていました。ペトロは、苦しみの中にあっても創造者である神の御心を教え、この世の生活は仮住まいであり、天に真の故郷があると示唆しています。そしてまた、信仰者は「霊」によって新しく生まれ、きよめられると書いています(1、2節)。イエスの救いを信じ、今までの自分とは違う生き方に変えられる時、私たちは新しく生まれる経験を経験します。神の聖い霊によって、新しく生まれ、「聖なる者」とされるのです。それは人間の力や

努力によってではなく、神の力によってなされることです。

神は私たちを一方的な神の愛により、イエス・キリストによって罪から救ってくださいました。苦しみ、痛み、悲しみのある世に生きている人間に、永遠の命の希望、神の国が必ず来るという大きな希望を与えてくださったのです。単なる気休めの希望ではなく、叶えられるかどうかかわからないものでもありません。絶対的な確かなものです。信仰者が新しく生まれたのは、生き生きとした希望の中に喜びに満ちあふれるためです。

どうして、「生き生きとした希望」なのかというと、イエスが死からよみがえられたからです。イエスは十

字架にかかり確かに死なれましたが、三日目に死からよみがえられました。イエスの復活は、現代を生きる私たちにも希望を与えています。

「あなたがたのために、天に蓄えられている、朽ちず、汚れず、しぼまない財産を受け継ぐ者としてくださいました。」(4節)

この御言葉は、この地上において、苦しみを受けている者にとって、非常に大きな慰めとなります。地上での財産は朽ちて消えていくものですが、天における財産は決してそのようなことはありません。

「あなたがたは、終わりの時に現されるように準備されている救いを受けるために、神の力により、信仰によって守られています。」(5節)

六、七節で、信仰者にはこの世にあつて試練があるが、試練によって信仰が本物と証明される、とペトロは教えています。日々喜びに満たされて生きることが、人間の力では簡単なことではありませんが、神の力によって可能なのです。御言葉から、信仰者一人ひとりが真実な神に対して、真実に生きることが大切だと教えられます。七節にあるように、試練によって信仰が本物となり、イエスが再び来る日に称賛と光栄をいただけるようになります。また、この世にあって、信仰により、神の力により、試練に立ち向かうことができますように、と願います。

日、日本での救世軍開戦百三十周年を迎え、これからのように救世軍は前進していけるだろうかと思えます。遺産として受け取るべきものとして、はっきり言えることは、神は真実な唯一の方で、神の御言葉の真理はいつまでも、どの時代にも変わることがないということです。そしてその聖書の真理を土台とし、神第一として生きた信仰の先輩方の姿が、私たちが受け継ぐ遺産であると思えます。

多くの信仰の先輩方を見ていると、神の御言葉、聖書の言葉に感動し続けることが、生き生きとした希望を抱いて生きる、何よりの秘訣だと教えられます。そして、多くの下士官や士官の引退式でなされる証言は、ただただ神と、支えてくれた家族や戦友への感謝の言葉です。神の真実さと愛を確認し、また神のそれぞれにかけられた召しの声に忠実に応えられた姿を見させていただいています。永年、神と人に仕えた信仰の実りとして、そこには神から与えられた豊かな恵み

「あなたがたは、キリストを見たことがないのに愛し、今見なくても信じており、言葉では言い尽くせないすばらしい喜びに満ちあふれています。それは、あなたがたが信仰の実りとして魂の救いを受けているからです。」(8、9節)

神は信仰者に、生き生きとした希望をイエス・キリストの救い、死と復活によって与えています。永遠に生きる魂があり、天国への希望が喜びとしてあるので、皆さんの心が、見ないで信じる信仰の実りとして、魂の救いをこれからも受けとることができる信じます。

日々、神からの御言葉を新鮮に受け取り、感動し、心に喜びを満たしていただけるように、と祈ります。

(人事・教育部長)



# 集会報告

## 創立160周年記念コンサート

6月8日(日)午後3時 山室軍平記念ホール

## 士官候補生夏期訓練任命集会

6月15日(日)午後2時30分 杉並小隊・総合センター

### ●創立160周年記念コンサート

ペンテコステの日曜日の午後、おこなわれました。ジャパン・スタッフ・バンドに救世軍の戦友・関係者有志が加わった30人を超えるブラスバンドが編成され、演奏の奉仕をしました。司会の勝笹実香少佐(士官志願者部長・渋谷小隊士官)の開会の言葉に続き、バンドが快活なマーチを演奏。司令官スティーブン・モーリス大佐は挨拶で、「今年は救世軍が英国で創立されて160年、日本では130年を迎える特別な年。これまで救世軍を導いてくださった神の真実に感謝し、これからも私たちの真実を尽くして働いていきたい」と述べ、会衆を歓迎し祝福を祈りました。

バンドの2曲目の演奏の後、社会福祉部長石川一由紀少佐がスライドに合わせて救世軍の紹介と最近の活動報告をしました。続いて、「Sing Hosanna!」のバンド演奏に合わせ、東京東海道連隊有志タンバリン隊が操練し、主を賛美しました。今年のテーマソングのバンド演奏に続き、第9回社会鍋俳句コンテスト受賞作品の発表の時。選者の唐澤南海子先生から挨拶と講評があり、昨年の倍の460作品もが寄せられた中から選ばれた各句が読み上げられました。その後、受賞者で来会された方々へ司令官から賞状が授与されました。

ジャパン・スタッフ・ソングスターズ

### ●士官候補生夏期訓練任命集会

梅雨の晴れ間となった日曜日の午後、おこなわれました。杉並小隊バンドの演奏に合わせてラーランザウイ候補生が学年旗を掲げ入場。司令官が高壇でハレルヤの敬礼とともに迎えました。司会のYGC(山室軍平カレッジ)教官山谷昌子少佐のリードで開会の救世軍歌を歌い、続いて宇賀神努ワーシップ軍曹(杉並)が祈りを献げました。司令官スティーブン・モーリス大佐が挨拶に立ち、会衆を歓迎し候補生を励ました。

杉並小隊ワーシップチームが「誰も見たことのないことが」「神にはできる」を賛美し、主に期待する心が引き上げられる時でした。続いて、夏期訓練任命の時。司令官はラーランザウイ候補生を夏期訓練のため、名古屋小隊に遣わすことを発表し、辞令を授与しました。ラーランザウイ候補生は、YGCでの学びと訓練を通しての恵み、マンマーと日本の文化の違いの中でも、多様性のすばらしさを学びながら成長できていること、夏期訓練での新しい出会いや小隊での奉仕への期待、神様の望まれる仕えるリーダーとして成長したいという願いと、神様の召しへの感謝を証しました。

献金の後、加藤信一楽隊員(月島)が聖書を朗読し、YGC校長ダニエル・テンブルマン・トゥエルズ少佐がローマ5:1~5より「信仰によって義とされて」と題してメッ

が合唱「O happy day」を歌い、続いて司令官がペトロロー1:3~9より「あなたに命を授けます」と題しメッセージをしました。「今日は聖霊降臨を記念する日曜日。聖霊は目に見えないが、この方を信頼し信じる時に救いが与えられ、永遠の命を受ける。神の愛と救いを他者に伝えたいという願いによって救世軍は世界中に広がり、神の永遠の御国への招きを続けている。聖霊は、私たちが自分が救われて満足するだけではなく、皆が手を携えて天の御国へ進むために、証し、伝道するよう招く。まだ神を知らない方は、ぜひ今日、聖霊に出会い、永遠の命に至る救いを受け取ってほしい。」

最後にバンドが演奏し、コンサートを閉じました。(会衆134人)



俳句コンテスト選者の唐澤先生と受賞者の皆さん



杉並小隊ワーシップチーム



ラーランザウイ候補生



ダニエル少佐と通訳をした石川眞兵士

セージをしました。「私たちはただキリストの十字架を信じる信仰によって義とされた。それによって、目に見える状況にかかわらず、霊的な平和を創造主との間に得ている。また、イエス・キリストと共同の相続人とされ、神の尽きることのない恵みを受けるといふ特権をいただいている。そしてキリストの十字架は私たちを聖潔の生活へと招く。キリストは唯一の犠牲の献げ物となってくださり、信仰者を永遠に完全な者としてくださった(ヘブライ10章)。私たちはすでに聖い者とされており、また、聖潔に成長するように招かれている。信仰によって救われ義とされた私たちは、イエスの血によって聖められる歩みを続けていこう。」

メッセージ後、祈りの時。恵の座への招きがなされました。その後、軍国女性部書記西村和江大佐補が祈り、閉会しました。集会後のロビーでは候補生に声をかけ励ます戦友方の姿がありました。(会衆79人、恵の座3人)

## ジョン・ウエスレーの聖潔

—心うち燃えて—

少佐 丸畑 幸夫



(承前) 私たちは今は光となっているにしても、かつては闇であり(エフェソ5:8)、人に信頼されるほどに善人ではない。神以外には善い者はいないのである(マルコ10:18)。月は光ついているとしても光源ではない。人は神の光なくして輝くものではない。私たちは主の光において光を見るのである。自分で自分を照らすことはできない。人はそれ自身では闇にすぎない。しかし自然美の中にも霊性が根底の中に幾分かあることは否定できないことを、ウエスレーは知っていた。それは啓蒙主義者の説く霊性の兆しというものである。信告白とは切り離されていた英国の啓蒙主義はこの点が完全に欠如していた。キリストの御名がそこに見えないことが、心が燃えない理由である。

ウエスレーは、この世の自然と芸術が提供してくれる敬虔な美を感謝して受け止めている。

私たちは自分の実体を認識して、世のものを控え目に用い、暮らしを低くし、美食を味わう時にも、粗食を味わう時にも、それらが健康に良いとして、すべてのものを豊かに与えて楽しんでくださる神に対して単純に感謝し、神からの恵みを喜び、自由に満ちた祝福を味わい知る。それは良いことである。主の霊のあるところには自由がある。

喜びを減じることなく、健全な芸術やその他の楽し

みを享受することは良いことである。すべてのものを豊かに与えて私たちを楽しませてくださる神に感謝して味の良いほうを選び取り、花の香りを喜び、天然の織物の巧みさを五感の健全な活用によって喜ぶ。この歓喜の情との美しい調和が神ご自身からの私たちにへの贈り物となるのは、うれしいことである。ウエスレーは「陰気な敬虔は悪魔の宗教である」と言っている。この故に、クリスチャンが「常に主を悦ぶ」ことに水をさしてはならない。

人は新生を経験しなければ、この世のものにどんなに恵まれていても、幸福ではない。近代ドイツにおいて、クリスト教信仰の世俗化を容認した時、代替物が侵入して「文化」という名のもとに信仰が衰えたことに心を留めておかねばならない。ウエスレーの喜びは、「すべて神の栄光のため」その行為が用いられることである。人の霊魂は神にとつて、これ以上に価値あるものはない。全人類が支払うことのできる犠牲よりも貴いのである。文芸復興を高貴なものと評価したルネッサンスの中に「真・善・美」は充分に見られるが、残念なことに、宗教改革の中に強調された「聖」や「敬虔」「霊性」の深みは欠いている。

キリスト教的な精神の完成を目指しつつも、ゲートは文化的教養によってそれを達成しようとしたが、ウエスレーはそれを「信仰を通しての恵み」によって達成しようとした。それを贖罪者なるキリストによって達成しようとした。ここが芸術と神への信仰の真面目さの違いである。芸術は崇高であり、厳粛であるが、神と比較できるものではない。

キリスト者の完全は、贖罪者なるキリストに固着している完全であり、私たちがキリストと一つになり、キリストが私たちと一つになってくださる時に、私たちは完全に幸福になる。

「キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。」(コリント1:5:17)もし今、私たちが不幸であるならば、私たちが不自然な状態にいるからである。最も深い喜びは神の祝福

から来る。この喜びは天と地の共通のものであり、以前よりも更に前進して、恵みのうちに成長していく。信仰者は「キリストの満ち満ちた徳の高さ」に至るまで成長しなければならない。

私たちの世俗に対する愛が神への愛に変えられる時、傲慢は謙遜に、憎しみは優しさに変えられる。このようにしてキリストを通じて神に嘉される時、この新生は「聖潔」への順序として守られる。聖化、そこには「義認」が先行する。

ウエスレーは「完全の教理」が道徳に関係のない不思議な体験であるとは言っていない。神は罪を疾病と見ていて、キリストはこれを癒す医師と述べている。そこで「聖潔」を回復された霊的健康であると呼んでいる。引き続き私たちが健康であろうと願うならば、道徳的・霊的な幸福のためにも、これを重んじることがを説いている。ウエスレーはこれを「神の聖像に戻される」と表現している(参考「死に至る病」キルケゴール)。回心において聖潔は始まり、生涯を通じて聖化は継続される。新生こそは聖潔の門であるとウエスレーは説いて、「キリスト者の完全」は警告するとともに、感謝の献げものとして記している。

霊性のうちに響く神の声を、良心に語りかけてくださる神の啓示としてこれを受け入れる人が、健康な魂の持ち主である。

あらゆる点で神と人に対して罪なき良心をもととする、それがクリスチャンの喜びであり、幸福なのである。神聖な悲しみさえも、この幸福の喜びを消すこととはない。この幸福は永遠の生命に至る泉から湧き出たのである。

思想も言語も行為もすべてが神の愛によって支配され、常に主による喜びに満たされる。この聖められた状態が「キリスト者の完全」であり、この状態を「成聖」と呼ぶ。ウエスレーは常に祈りつつ過ごした。「我が口は主に向かって開きます。たとい声を発せずとも、黙して主に語りまします」と言っている。

(続く)

# 女性部ラリー 北海道連隊

●2025 女性部ラリー&交流会  
6月19日(木)、北海道連隊「女性部ラリー&交流会」が、コロナ禍を経て6年ぶりに札幌小隊で開催されました。今回のテーマは「信仰によってなお実を結ぶ」。礼拝と交流を中心に、「もしバナゲーム」を通して、自分らしい丁寧な暮らしと生き方のヒントを得るというものでした。開会集会は、連隊女性部書記石坂奈緒美少佐の司会



**9月28日(日)**  
**人身取引被害者のための世界祈禱日 2025**

人身取引対策室からのお知らせ、ポスターをご覧ください

で始まり、附田敦子家庭団書記(函館)の開会祈禱、帯広小隊士官眞鍋和枝少佐が買い物ゲームを導き、会衆賛美と献金の後、生井明子兵士(帯広)が聖書を朗読。ゲストの軍国女性部書記補佐石川芳子少佐が、「神の国をめざして天に宝を」と題して、メッセージをしました。オリエンテーション、写真撮影の後、昼食会で久々の再会を喜び合いました。



午後は、医療部チャプレン長柞山順子大尉が、もしバナ講師として、「わすれられないおくりもの」の絵本を読み、死と残された者への配慮について語り、その後5つのグループに分かれて、「もしバナゲーム」を、余命一か月という設定でおこないました。ゲーム後、総括があり、参加者全員が短く感想を述べ、「選ぶこと、捨てることの難しさ」や「ゲーム中に起きた自分の感情や考えの動き」など、体験した思いが語られました。講師を通して、各参加者の、素直に分ち合うとともに受け入れ合う姿勢が引き出され、生きる力や問題解決へのヒントが与えられました。短い時間でしたが、充実した楽しいひと時でした。最後に祈りが献げられ終了。互いに挨拶を交わしながら解散となりました。(参加者 午前21人、午後20人)

## ご報告 救世軍ブース記念病院の事業譲渡について

長年にわたり救世軍ブース記念病院をご利用いただいた皆様及び運営をご支援くださった皆様に、心より感謝申し上げます。ブース記念病院は、慎重な検討の末、2025年6月30日をもって閉院し、翌7月1日より医療法人社団城東桐和会(タムスグループ)による「タムス杉並病院」として新たに開院いたしました。ここに、改めて事業譲渡についてご報告申し上げます。

【事業譲渡の概要】  
救世軍は、地域医療の維持・発展を目指し、ブース記念病院の事業と職員寮をタムスグループへ譲渡する決定をいたしました。これにより、2025年7月1日より「タムス杉並病院」として診療が継続されております。  
【現在の診療体制について】  
外来、地域包括ケア病棟、医療療養病棟、ホスピス緩和ケア病棟、訪問診療など、これまでブース記念病院が

担ってきた医療機能は、現在も継続して提供されております。通院・入院中の患者様への医療提供に大きな変更はなく、診療情報も適切に管理されています。なお、老人保健施設「グレイス」及び特別養護老人ホーム「恵みの家」につきましては、引き続き救世軍が運営しております。また、ブース記念病院の栄養科が担っていた宅食サービスについては、新たに設置した「救世軍スープロジェクト」が引き続きサービスの提供に努めてまいります。

【皆様への感謝とお願い】  
これまでのご支援に、改めて深く感謝申し上げます。今回の事業譲渡は、地域医療を守り、患者様への医療提供を今後も安定的に続けるための決断でした。今後とも、変わらぬご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 医療部

### ●救世軍ブース記念病院閉院に際しての感謝会

6月30日(月)、ブース記念病院としての最後のこの日、午後5時30分より、山室機恵子記念チャペルにて感謝会がおこなわれました。病院職員、グレイスと恵みの家の職員、及び過去に任命を受けた士官と本営士官等の関係者が出席しました。会場内にはブース記念病院100年の歩みの写真が掲示されました。感謝会は医療部長西村和江大佐補が司会し、高橋暁子チャプレンの奏楽で、病院礼拝で長きにわたり賛美され

た「いつくしみ深き」を開会賛美として歌いました。チャプレン長の柞山順子大尉が祈禱、齊藤博彦院長が挨拶をしました。吉田真中将から「ブース記念病院の働きの意義を振り返る」との話があり、司令官ステイブン・モーリス大佐は「私たちは聖なる地に立っています」(ヘブライ6:10)と題しメッセージをしました。感謝の祈りを軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐が献げ、閉会しました。参加した職員、士官方は互いに別れを惜しみながら散会しました。(参加者66人)



齊藤院長



メッセージする司令官



挨拶を交わす参加者の皆さん

ブース記念病院閉院に際しての感謝会  
メッセージ  
「私たちは聖なる地に立っています」  
司令官  
ステイブン・モーリス大佐

皆様、こんばんは。この厳かな時にご参列くださいましたことを感謝申し上げます。本日は、百九十九年にわたる救世軍ブース記念病院の働きに感謝を献げる時です。百九十九年にわたって、この場所で地域の人々への癒しとケアの働きがおこなわれてきました。私たちは、この変化に痛みを感じつつも、また喜びの思いをもつてここに集っています。

この建物、この病院、そして仕事をしてくださっている方々、それは単なる職場以上の意義をもっているものです。これらすべてのものが、聖なる場所を形づくっていると、思います。この場所は、癒しが始まる場所、家なのです。今日、私たちはこの場所で起きたすべての出来事

百九十九年にわたって、この場所は希望の柱として立ってまいりました。この建物、この場所で、何千人という方々が癒されました。愛する家族との最後のお別れを、多くの方々がここで経験されました。癒しは、薬だけでなく、優しい言葉、寄り添う姿、そして力を合わせて働くチームによってもたらされたのです。

ここにおられるお一人おひとりが、この聖なる物語の一員となってくださいました。この病院の看板の名前(次頁へ続く)

(前頁より)

は、以前とは違ったものになるでしょう。しかし、この場所に築かれてきた遺産は、これからも続いていきます。というのは、その遺産は、皆様がケアをしておられるお一人おひとりの患者様と共にあるからです。皆様がケアをし、また慰めを与えられたのです。そして皆様が同僚を励ます、その励ましの中にこそ、この遺産があるのです。

そういう意味で、今日は終わりの日ではありません。この働きは、これからも続いていくのです。この場所でも時かた種は、これから何十年経つても、豊かな実を結ぶでしょう。この物語の章を閉じ、そして違うグループがこの章を引き継いでいきます。私たちは、その方々がこれまで真実に築き上げられたものの上に立って成功されることを祈ります。しかし、今日、私たちはここで歩みを止めて、「ありがとうございました」と申し上げたいのです。

この場所でお仕事を成し遂げてください。お一人おひとりに、ありがとうございます。他者のために命を注ぎ出してください。お一人おひとりに、心から感謝申し上げます。皆様がなされたその仕事は、人に対しても、また神に対しても、真実に感謝されるものなのです。どうぞ、これから仕事を続けられる皆様に、神が豊かに祝福してください。この建物の中で、この神の祝福がさらに響き渡っていきますように。元司令官・吉田真中將がブース記念病院の百九十九年の歩み

が、聖なる瞬間の連なりであったことを覚えてほしいです。

ヘブライ人への手紙六章一〇節には、「神は不義な方ではないので、あなたがたの働きや、あなたがたが聖なる者たちに以前も今も仕えることによって、神の名のために示したあの愛をお忘れになるようなことはありません」とあります。この約束は、皆様お一人おひとりに与えられている約束です。愛の中で献げられた奉仕は、決して失われることはありません。

静かに、心を込めておこなった憐れみの業。それは一つひとつ、決して消えることはないのです。あなたが働いたその長い時間が、決して消え去ることはありません。患者様のそばでケアをしたその夜も、決して消えることはありません。神はそのすべてをご覧になっておられました。そして神は、それらを決してお忘れにはなりません。

を振り返るお話の中で言われた言葉を引用します。「あなたが誰かに仕える時、そこに神がご臨在になっておられるのです。」

ありがとうございます。そして、神様の祝福をお祈りいたします。

祈禱 軍国女性部会長  
ウェンディ・モーリス大佐

癒しと希望を与えてくださる神様。百九十九年の働きをおこなってきたこの病院に感謝いたします。この場所でも働かれた方々、心を注ぎ出して尽力してください。今、この物語の章を閉じようとしているこの時、どうぞあなたの祝福を添えてください。悲しみの中にある人々を癒してください。将来に向かおうとしている方々を祝福してください。この病院のすべての隅々にまで、神様、あなたの平安を満たしてください。

どうぞ、この場所の記憶が、これから光となって輝きますように。そして、この病院の遺産が、これからも祝福となつていきますように。明日から新しいステップを踏み出すその場所がどこであっても、お一人おひとりを守ってください。彼らが示したその愛が、どうぞ彼ら自身に戻ってきますように。そして、それが何倍にもなつて、お一人おひとりの人生に溢れますように。

神様、過去に感謝いたします。未来も、あなたに信頼いたします。イエスの御名によって祈ります。アーメン

# NEWS!! NEWS!!

## 各地のニュース!!



バンド楽曲になり、2011年、ISB120年で世界の8つのスタッフバンドがフィナーレとして合同で演奏しました。



### ●真鍋精一少佐、和枝少佐引退式

7月6日(日)、真鍋精一少佐と和枝少佐の引退式を、出身小隊である京橋小隊の聖別会でおこないました。人事・教育

## 京橋小隊

### ●召天者合同記念聖別会

6月29日(日)、小隊会館に召天者の写真を設え、連隊長中島美和少佐と連隊女性部書記鈴木真理子大尉を迎えておこないました。天国でも聖別会でも復活されたイエス様を賛美しているのです。130人の召天者名簿朗読の前に、救世軍歌集381番「世のおわりのラッパ」を賛美しました。この曲は「正義への招き」という

部長添田美和少佐の司会で、お子さん、お孫さん、ご親族も集われました。真鍋ファミリーと京橋小隊の楽隊員は、ISB120年で演奏した「ステラ」を合奏しました。

## 前橋小隊

### ●七夕バザー

7月12日(土)、13日(日)に恒例のバザーをおこないました。開店直後から多くの方が来場され、お買い物を楽しんでおられました。小隊前でのアクセサリー売り場にも多くの方が立ち寄られました。また、「防災セット」(連隊本部より提供された乾燥ご飯(アルファ米)、防災用ラジオライト、防災用クラッカー、アルミシートのセット)の販売は好評でした。



今年も、入口には自由に飲めるお茶を設置し、来場された方々に好評でした。接客を通してキリストの証しを立てる機会ともなり、地域の方々と良い交流の時となりました。

**証言**  
下士官任命にあたって  
(五月二十五日聖別会席上)  
月島小隊 加藤光次郎  
只今、大人数の下の下士官任命をいただきました。今日に至るまでの神様のお導きとお恵みをお話しさせていただきます。  
二〇二三年十一月、士官学校で開催された下士官セミナーに参加しました。講師はダニエル・T・T少佐と中島美和少佐、テーマは小隊下士官としての霊的成長でした。下士官は英語では「ローカル・オフィサー」と言うそうです。直訳すると「地域の士官」です。私は、小隊の楽隊員として出席しましたが、講義は、月島小隊が福音の拠点として神様に用いられるために、神様は私に何を望まれているだろうと考える時となりました。月島小隊には曹長、書記、会計が何人もいませんでした。その日の講義を終える頃には、小隊会計となるよう示されていました。ですが、それからすぐに会計となることはなく、あつという間に一年が過ぎた二〇二四年十一月、私は誕生日を迎え、個人の祈りの中で感謝をすることも、御言葉に従っていない自分に気づかされ、悔い改めるよう導かれました。御言葉のひとつは、「安息日を覚えて、これを聖とせよ。」もうひとつは「だれも二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである。あ

なたがたは、神と富とに仕えることはできない」でした。  
私は、夜勤のローテーション勤務で月に一回は日曜日が昼間の勤務になることがあります。夜勤をしているとその分手当が多くもらえ、その生活を長くやっていると日曜日に聖別会に出られないことに慣れてしまいい、仕方ないとも思っていました。しかし、昨年の誕生日以降「御心でしたら、平日日勤の勤務にしてください」と祈り始めました。年が明けて、職場に動きがありました。同じ部署で夜勤をしている同僚が二月から平日勤務になることがわかり、自分の希望は遠のきました。ところが、二月に入ってから、部署異動の話があり、私に声がかかりました。それは、これまで経験したことのない部署で、平日日勤で働くことでした。  
その異動の内示が出た次の日曜日に、小隊士官から、臨時で牧会ケア会議を近々おこなうことと、そこで大人数の下の下士官任命をさせていただきます。はい、と答えてお引き受けしましたが、しばらくの間、自分自身の中で「でも、だけれど」という期間が続き、私に、聖書を読む中で明確に示されました。「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。」(ヨハネ12:24) また、「御言葉を教えるもたらう人は、教



久保特務と幼い頃の私

分かち合えない。……人は、自分の時いたものを、また刈り取るようになるのです。自分の肉に時く者は、肉から滅びを刈り取り、霊に時く者は、霊から永遠の命を刈り取ります。……ですから、今、時のある間に、すべての人に対して、特に信仰によって家族になった人々に対して、善を行いましよう」(ガラテヤ6:6-10)です。  
私は幼い頃に、士官であった母の転任で、月島小隊に家族で来ました。母の任命は、小隊長久保虎爾特務曹長の副官でした。母は久保特務の元で四年間、実践的な良い訓練をさせていただきました。両親と私たち兄弟も戦友の皆さんに信仰の家族として受け入れていただき、祈っていたとき、助けていただき、成長を見守っていただきました。今は、兄弟、妻と娘二人と月島小隊の皆さんと信仰の家族として歩ませていただけていることに、感謝しています。  
月島小隊の歴代の下士官の方を思い出すと、現在の自分の信仰はとても未熟だと思いますが、月島小隊の信仰のすばらしい遺産の上に神様が新たに築いてくださる、そのために私を用いてくださると信じて、祈り、神様の御用をしてみたいと思います。ハレルヤ

## 集会報告

## 西日本地区ミュージックキャンプ

7月21日(月・祝) 大阪セントラルホール

7月21日(月・祝)、大阪セントラルホールにキャンパー33人、スタッフ11人、計44人が集まりました。各地から久しぶりに集まった参加者の和やかな雰囲気の中、伝道事業部長 石川和男少佐の司会で開会集会がもたれました。野本亮一ワーシップ軍曹(神戸)の祈祷、講師紹介〔バンドクラスー引地正樹 JSB 楽長、立石真崇少佐(神戸・泉尾)、齋藤丈夫大尉(広島・呉)。タンバリンクラスー吉田輝美会計(呉)、立石友理恵少佐(神戸・泉尾)〕があり、伝道事業部長はコリント二4章より「土の器の歌」と題してメッセージをしました。



開会集会



タンバリンクラス



バンドクラス



バンドクラス

その後、午前のレッスンをスタート。バンド初心者クラスでは楽器の持ち方、演奏の姿勢等、心得を学んだ後、短い曲を吹くことに挑戦しました。中級クラスでは基礎練習の意義とその方法を学び、4つの曲を練習しました。タンバリンクラスでは、救世軍タンバリンの歴史、構成の説明があり、その後、全国大会の昼食会で操練する振付けを練習しました。

午後からの2時間は、バンドクラスは初心者、中級クラス合同のレッスン。タンバリンは引き続き大会のための練習に熱心に取り組みました。タンバリンを初めて手にする参加者も、一曲をマスターすることができました。

閉会集会は西日本連隊長 本村大輔少佐の司会で進め

られ、西江章曹長(福山)の祈祷、関根結実ユースセクレタリー(天満)が大会聖別会に子どもたちが賛美する「すべてが新しい」をリードしました。キャンプの報告として、バンドクラス、タンバリンクラスがそれぞれレッスンの成果を披露し、石田征慈楽隊員(泉尾)がコーネットソロを演奏、翌日より参加するアメリカ南部軍国音楽キャンプの抱負を証しました。本村大輔少佐は出エジプト記より「神様との親しさ」と題してショートメッセージをしました。1日だけのキャンプでしたが、西日本連隊の士官、戦友の協力のもと、音楽を通して神様を賛美する恵み豊かな時を共に過ごすことができ、感謝をもって散会しました。(伝道事業部報)

# NEWS!! NEWS!!

## 各地のニュース!!

## 月島小隊

### ●加藤祥子少佐召天3年記念会

6月29日(日)午後2時からおこないました。加藤祥子少佐は1984年3月から1995年3月まで月島小隊で奉仕され、東京地区での任命も多かったため、この度、月島小隊での記念会開催となりました。

ご家族、月島小隊の戦友はじめ、親しく交流のあった方々や、かつて奉仕された小隊の戦友方も集まりました。月島小隊士官平本祐子大尉が司会、加藤直子少佐が挨拶をし、思い出の画像を皆さんで見ました。長年、親交のあった阪本智之兵士(月島)が追憶の言葉を述べ、月島小隊バンドの演奏があり、添田美和少佐が詩編31編からメッセージをしました。写真撮影後、茶話会の時をもち、鈴木雅子少佐の司会で和やかに思い出を分かち合いました。なお、午前の聖別会は名古屋小隊とオンラインで合同でおこない、加藤直子少佐が創世記のヨセフの生涯からメッセージをしました。

## 札幌小隊

### ●教誨師奉仕

6月5日(木)午後、札幌小隊士官 石坂臣司少佐は札幌女子刑務支所にて教誨師奉仕をしました。個人教誨と集団教誨をおこないました。また同日、札幌小隊社会鍋支援として、刑務所の希望する絵本と自己啓発本を合計28冊贈りました。



# YP (青少年部)・ファミリーニュース

## 東京東海道連隊

### ●キッズキャンプ 2025

7月22日(火)～24日(木)、奥多摩バイブルシャレーで、「JESUS! 最高の友達」のテーマでおこないました。40人の参加者が与えられ、初めて参加した子ども、ファミリーもありました。

1日目のオリエンテーションでは、連隊青少年部書記樋口潔大尉と小谷野みぎわ唱歌隊長(京橋)が賛美を導き、参加者を歓迎しました。樋口潔大尉は、テーマにあるように、イエス様と友達になって、自分の友達に、自慢の友達としてイエス様を紹介できるようになって帰ってほしいと励ましました。自由時間は、お楽しみのプールタイム。夕食はバーベキューで、おいしく、お腹いっぱいいただきました。ウェルカムナイトは、メリッサ・テンブルマン・トゥエルズ少佐(江東)と朝澤まりこ大尉(連隊本部)が導きました。イエス様はどんな人がゲームを通して知り、チームに分かれてイエス様へのチアダンスを考え、発表しました。それぞれの意外な一面が見え、笑いのあふれる楽しい時間でした。

2日目は、部屋ごとにデボーションをし、チャペルで賛美と聖書のお話の時間を持ちました。連隊女性部書記鈴木真理子大尉が、神様、イエス様、聖霊様が愛によって一つであることをスキットを通して語り、イエス様のお話を聞くのが初めての子どもたちもよく理解することができました。午後はスイカ割りをし、続いて、グループに分かれて協力しながらゴールに向かう「謎解きゲーム」を、加藤直子少佐(名古屋)のリードでおこないました。その後は、最後のプールタイムを楽しみ、夕食の後はキャンプファイヤーで火を囲んで賛美とゲームを楽しみました。メッセージでは、鈴木智博大尉(横浜)が子どもの時、隣の家が火事になり、お祈りをした経験から、イエス様は私たちの祈りを聞いてくださり、どんな時も、友としていつも私たち



の近くに来てくださること、また、私たちの心の中の思いを知り、罪を赦してくださる方であることを語りました。メッセージを聞いて、参加者は、イエス様を信じる決心と、もう一度イエス様と共に歩む決心の祈りを献げました。

3日目はデボーションで始まり、閉会集会をしました。3日間賛美した「てのひらを」「いっしょにうたおう」「すべてが新しい」(大会聖別会前ミュージックタイムで賛美予定の曲)をみんなすっかり覚え、元気に賛美しました。連隊長中島美和少佐が、神様が私たちの罪を赦すために、イエス様をこの地上に送ってくださったこと、イエス様が私たちの罪を全部背負ってくださったこと、聖霊様が私たちといつも一緒にいて、守ってくださることをスキットを通して語り、帰ってからも聖霊様に守られて生活できる、とメッセージしました。天候が支えられ、とても楽しい3日間を過ごすことができました。来年の再会を約束して、それぞれ帰路に就きました。(連隊報)



## 天満小隊

### ●YPデー、ジュニア・ソルジャー入隊式

7月27日(日)は、天満小隊110周年記念月間(参照10、12ページ)の第4週目で、YPデーとして守りました。祈禱会は池田聡士青少年部曹長の司会、その後、日曜学校礼拝形式で大人も子どもも一緒に集会をしました。司会は関根結実小隊ユース・セクレタリー、奏楽は関根暁子青少年部会計と、青少年部が役割をもちました。聖書交読、献金係(お祈り)を、子どもたちが担いました。日曜学校を経験したことのない方々にも、日曜学校を知ってもらう機会となりました。また、関根奏さんのジュニア・ソルジャー入隊式があり、11年ぶりのジュニア・ソルジャーの誕生をみんな感謝しました。本村いずみ少佐が使徒11:19～



ジュニア・ソルジャーになった関根奏さん

26と13章より、バルナバとサウロが聖霊の語りかけによって送り出されていく姿を通し、「全世界に出て行ってすべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」はすべてのクリスチャンへの御言葉である、とメッセージしました。その後、大人も一緒にワークブックのクロスワードパズルを解きました。

## NEWS!! NEWS!!

### 各地のニュース!!

## 恵泉ホーム、ケアハウスいずみ

### ●開設記念バラ祭

6月21日(土)、恵泉ホーム48周年・ケアハウスいずみ23周年開設記念バラ祭をおこない、利用者、家族、職員、近隣住民の方々など170人を超える参加者があ



職員永年勤続表彰。10年から40年の表彰がなされた

りました。祝会では、書記長官西村保大佐補がコリント二 2:14から「香りを漂わせて」と題してメッセージをしました。また、職員永年勤続表彰式と、第9回救世軍社会鍋俳句コンテスト授賞式もおこなわれました。恵泉バンドアンサンブル「東からも西からも」の演奏など、終始和やかな雰囲気で行われ、時をもちました。なお、祝会は感染予防のため、午前にケアハウスいずみ、午後には恵泉ホームと、二回に分けておこないました。



俳句コンテスト佳作入賞の関谷絹子さんを囲んで

## 天満小隊 110周年記念月間の諸集会

※12ページ「各地の小隊から」も参照

### ●聖別会、記念コンサート

7月6日(日)、天満小隊110周年記念月間として第一週目、聖別会席上、午後の記念コンサートゲストの小谷野みぎわ唱歌隊長(京橋)の証言と賛美がありました。小隊士官本村いずみ少佐がローマ8:26～30より「神様のご計画」と題しメッセージをしました。歓迎昼食会は家庭団の皆さんが準備したちらし寿司とお吸い物、サラダやゼリーなどをいただきながら、ゲストの方々からひと言いただき、親睦の時をもちました。

午後からのコンサートには京阪神地区の小隊やご近所の方々が集われ、美しい歌声と証言に耳を傾けました。「一緒に歌いましょう」のプログラムもあり、アンコールまで楽しい時になり、感謝でした。



### ●聖別会〈賛美と証の時〉

7月13日(日)の聖別会は、「賛美と証の時」として、全員が証言と感謝をする時とし、本村いずみ少佐のリードでおこないました。椅子を輪になるような配置にし、いつもの聖別会とは違うスタイルで、参加者一同で証言を分かち合いました。間に何曲か賛美をしながら、皆さんの愛唱歌や好きな聖句などを聞き、2時間があっという間に過ぎました。最後に本村いずみ少佐が使徒2章の初代教会の信徒の姿から短くメッセージしました。



### ●聖別会〈それぞれのタラントを用いての集会〉

7月20日(日)の聖別会は、それぞれのタラントを用いて、参加者による賛美や分かち合いの時としました。天満バンドの演奏や、戦友が自分で作詞・作曲・ピアノ演奏・映像作製をしたクリエイティブなミュージックビデオを見て、前週に来られなかった方々からも証言を聞きました。本村大輔少佐が「主の証し人であるわたしたち」と題し、使徒26:12～23よりメッセージをしました。



### ●YP (青少年部) デー

7月27日(日) YPデーとして聖別会をおこないました。(記事11ページ) 午後は記念月間を締めくくるときのランチ会で、おいしく楽しいひと時を過ごしました。



〈連載・第34回〉

# 神の呼びかけ ～神の民となるために～

## (13) 家族への呼びかけ

(承前) 救世軍では、家族の価値を常に理解し、奨励してきました。長年にわたって家族というのは、キリスト教であるなしにかかわらず、信仰を伝えていくための中心的な役割を担ってきました。多元的な社会にあって、今もこの伝統に立って成功している場合もあります。しかし、多くの現代的な家族の間では、一日に一度はおろか、週に一度、一緒に食事をすることもできません。食事は一緒に過ごす時間を与えるものであり、会話をしたり、互いの生活やその日の出来事を分かち合ったりする機会です。家族の声よりテレビやラジオの音が聞こえてくるといふ家が、本当に増えています。

共に祈ることなど稀になっているようです。家族はばらばらの時間に家を出て、子どもたちは学校へ、父親は会社へと向かい、少し遅れて母親も仕事に出かけます。彼らはまたばらばらに帰宅します。帰ってからそれぞれ、宿題、家事、あるいは友達に会うことなど、やることがあります。中には、果敢にこのような現代社会の風潮に逆らう家族もいます。そのような人々は互いの大切さをよく理解し、愛し合い、支え合おうとします。そうでないと家族は次第に離れていってしまうのです。

委員会は、世界中のすべての救世軍人たちに呼びかけます。この状況の深刻さに気づき、できる限り家族を生活の中心へと、特に信仰の継承において、取り戻してほしいのです。このためには努力をする決心が必要ですが、必ずできるはずで、食前の祈り、家族での祈り、日曜ごとの礼拝の時、そしてクリスチャンとしての交わりに基づいた社会生活、これらすべてが良い感化となります。

しかし、家族の生活に対する攻撃が増すにつれ、その大小にかかわらず危険を察知して対策を講じなければなりません。そのため委員会は、誠実な愛をもって親たちを支えるために資料を用意するように勧めるのです。子どもたちが全くきよめられて、神とその宣教に心を燃やす者となるように、親と一緒に導くことを勧めます。

親たちには助けが必要です。最初の子どもが生まれると、どの親も自分の至らなさに気づくものです。初めて親になるのです。経験しながら親としての訓練を受けます。どれも新しく経験することばかりです。近年、救世軍では結婚を控えている人々に向けた準備の指針となる書籍を何冊も出版しています。これらの資料は、お互いの必要について誠実な愛と理解をもつよう奨励しています。

夫婦がそれぞれ良い役割を果たし続けたいのなら、互いに忠実に相手を思いやるべきです。両親が子どもに与えられる最善の贈り物は、お互いに愛し合うことだと言われます。子どもたちはお手本から学び、確かな環境で

自分が守られていると安心します。

さらに、都市化した世界で増えている家族の機能不全や崩壊の問題で明らかになってきたことは、離人症や自己卑下、孤独、疎外感の広がりです。社会で隅に追いやられ埋もれてしまった人々を、もう一度居場所を与えて社会に戻し、神の家族の一員とするためには、さらに高い努力が求められます。信者たちの交わりの中に居場所を見つけて受け入れるためには、強固な支援体制が必要です。追いやられてしまった人、自信を失っている人たちでも、まず自分の居場所がここにあると確信できれば、交わりに貢献できるはずで、

救世軍はしばしば社会奉仕や地域活動で賛辞を贈られます。人生でつらい経験をした人たちが、救世軍の奉仕や伝道によって立ち直っています。しかし、そのことと、各小隊の士官たちが離人症、孤独、自己卑下、疎外感などを味わっている人たちに対して、どれほど適切に対応しているのかという点は別のことです。

この課題の解決のための仕組みをつくり実践することは、容易ではありません。前に認めたように、小隊は無意識的に排他的になりやすいからです。この問題に直面した小隊は驚くと思いますが、良い機会が備えられていることを発見して、伝道に新たな力を与えられるでしょう。呼びかけの声は、すべての小隊に連なる神の家族の一人ひとりに届くでしょう。

### 質問

1. どうしたら、家族の大切なニーズ(身体的にも霊的にも)に対して、かけがえのない時間を与えることができるでしょうか。
2. どのようにして家族を誠実な愛ときよい生活に導くことができるでしょうか。
3. 離人症、孤独感、自己否定、または疎外感などに陥っている人々に対して、あなたの小隊ではどのように取り組んだらいいでしょうか。
4. あなたの小隊は神の家族ということをどのように体現していますか。

### 参考になる聖書箇所

マルコ 10・13～16、ガラテヤ 6・10、テモテ 3・1～13、ヤコブ 2・14～18、ヨハネ 3・16～20、5・1～4、ヨハネ 3・4、エフェソ 3・14～19 (続く)

感謝祭募金 9月15日～30日

感謝祭オンラインイベント

9月7日(日) 深夜0時配信開始  
救世軍 YouTube チャンネルにて

\*夏のキャンプ報告、全国大会案内などをお知らせする予定です。各拠点での献納式や諸集会でご活用ください。

## 恵みの家

### ●創立12周年記念集会

5月1日(木)、恵みの家は創立12周年記念集会をおこないました。ゲストに書記長官西村保大佐補と軍国女性部書記西村和江大佐補を迎えました。集会では、引地正樹施設長の挨拶に続き、書記長官がイザヤ43:1～4から「わ

たしの目にあなたは価高く、貴く」と題してメッセージ。また、長年にわたり恵みの家を支えてくださっている職員への永年勤続表彰もおこなわれ、この特別な節目に際し、感謝を伝える機会となりました。



## NEWS!!

## NEWS!!

### 各地のニュース!!



## 大森小隊 ●第60回召天者合同記念聖別会

7月6日(日)、おこないました。猛暑の中、ご遺族、戦友が遠くから近くから集いました。106人の召天者名簿が、大人部曹長の田中禎一少佐により朗読され、吉田かほる中將が、召された方々を偲び勧話をしました。吉田真中將がコリント二1:3～7より「慰めてくださる神」と題し説教をしました。(会衆16人)



連載

## 各地の小隊から

### 第14回 天満小隊



小隊士官 本村いずみ少佐

天満小隊は今年、開戦110周年を迎えました。1915(大正4)年7月に、大阪第七小隊として開戦。「開戦といっても開戦式らしい特別な集会もなく、小隊といっても会館らしい建物もなく、戦友の一人もなかった」と、開戦時の副官をされていた杉秀一中佐が50周年記念誌に投稿しています。大正4年夏、日本の救世軍では、大阪市内に新たに三カ所の小隊を開く計画(天満、上福島、空堀)が発表され、それに伴う開戦でした。(大阪第一小隊は明治35年9月30日、梅田町に設けられました。)

昭和の初め頃には大阪市内には13の小隊と2つの社会事業施設、堺や和歌山の小隊もあり、兵庫県、京都府にも約10の小隊がありました。関西には2つの連隊が設けられていた時代もあります。その後(戦時中・後)、合併や閉鎖される小隊があちこちにあり、救世団としての独立、戦後は、救世軍に復帰する際に日本基督教団として残るところや、分裂などもあり、今に至っています(記念誌より)。

天満小隊も、名前が変わり、場所の移転を繰り返し、

合併等もおこなわれ、賑わっていた時も、また、寂れていた時もありつつ、それでも神様の愛に満ちた導きの中、多くの士官、戦友の祈りと支え、救霊の働きによって今日の小隊があります。日本での救世軍の過渡期であり変革の今、先は見えないながらも、今まで導き守り支えてくださった神様にお委ねし、戦友一人ひとりが信仰生活を守り通し、さらに歩んでいきたいと願っています。

2025年7月、110周年記念月間として、1カ月間を特別に覚えて、普段とは違ういくつかのプログラムを実施することにしました。今までのような盛大で派手な1日だけのお祭りのものではなく、天満小隊が今まで続けてきた感謝と、それぞれが小隊や神様に連なる感謝とこれからに向けてどうあるべきか、それぞれが信仰を考える機会として守ること、そしてできるだけお金をかけず、できるだけ参加して自分のこととして考える。ただし無理はせず、自分の身体と相談しながら出席することにして、毎日曜日に工夫をして礼拝の時をもちました。(各集会の報告は10、11ページにあります。)



7月6日 記念コンサートのひとこま

引退  
眞鍋精一少佐(京橋小隊出身は、二〇二五年六月三十日付をもって現役を引退。引退後も現任命で奉仕を継続される)

召天  
佐々木トセ少佐(鶴橋小隊出身は、二〇二五年八月十日、召天。)

司令官  
ステイブ・モーリス

救世軍公報

任命の変更(YGCへの移行に伴い(カッコ内は継続任命))  
補山室軍平カレッジ校長(兼) 霊的生活成長部長  
ダニエル・テンブルマン・トウエルズ少佐

補山室軍平カレッジ教官(兼) 医療部チャレン

山谷昌子少佐  
坂本恭子少佐  
補山室軍平カレッジ教官(兼) 杉並小隊士吉

樋口光世大尉  
横口光世大尉

(なお、霊的生活成長部長は山室軍平カレッジへ組み入れられる)

二〇二五年四月一日付  
二〇二五年六月二十五日発令  
司令官  
ステイブ・モーリス

**NEWS!!  
NEWS!!**

**各地のニュース!!**

**社会福祉部・医療部**

●リーダー研修会

6月3日(火)～4日(水)、マホロバマイズ三浦(三浦海岸)にて、「自分たちに期待されている働き」と題して開催しました。開会礼拝は書記長官西村保大佐補がルカ7:1～10より「そうしていただくのにふさわしい人です」と題してメッセージ。軍国女性部書記及び医療部長西村和江大佐補が祈り、吉田真中将より理念についての講演がありました。講演を受けて、テーマに沿ったディスカッションがおこなわれました。2日目は軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐によるバイブルリーディング、ディスカッションの総括後、司令官ステイブ・モーリス大佐がヘブライ11:8～16より「信仰の遺産」と題してメッセージをしました。参加者は2日間の恵みを感謝し、それぞれの地に戻りました。(参加者9人、講師・スタッフ14人、計23人)

●全国中堅職員研修会  
7月8日(火)～10日(木)、マホロバマイズ三浦で「誇りをもって働く」をテーマに開催しました。開会集会は軍国女性部書記及び医療部長が、「その人の隣人になる」と題し、ルカ10:25～37よりメッセージ。書記長官による講演「救世軍を知ろう！」(救世軍の歴史)、社会福祉部長石川一由紀少佐による講演「救世軍の現在の働き」があり、「地の塩 山室軍平」の映画を鑑賞後、吉田真中将から理念の講演がありました。理念について3回のグループワークをおこない、「誇りをもって働く」ことについて考えを深めました。軍国女性部会長によるバイブルリーディングでは「羊と山羊を見分ける」(マタイ25:31～40)と題して語られ、私たちのもつ社会への視点について考える時でした。閉会集会では司令官が「仕えるリーダー」と題しメッセージ(ペトロ4:1～10)。良い学びと交流の3日間となりました。(参加者17人、講師・スタッフ12人、合計29人)

●全国中堅職員研修会

7月8日(火)～10日(木)、マホロバマイズ三浦で「誇りをもって働く」をテーマに開催しました。開会集会は軍国女性部書記及び医療部長が、「その人の隣人になる」と題し、ルカ10:25～37よりメッセージ。書記長官による講演「救世軍を知ろう！」(救世軍の歴史)、社会福祉部長石川一由紀少佐による講演「救世軍の現在の働き」があり、「地の塩 山室軍平」の映画を鑑賞後、吉田真中将から理念の講演がありました。理念について3回のグループワークをおこない、「誇りをもって働く」ことについて考えを深めました。軍国女性部会長によるバイブルリーディングでは「羊と山羊を見分ける」(マタイ25:31～40)と題して語られ、私たちのもつ社会への視点について考える時でした。閉会集会では司令官が「仕えるリーダー」と題しメッセージ(ペトロ4:1～10)。良い学びと交流の3日間となりました。(参加者17人、講師・スタッフ12人、合計29人)

**召天者合同記念会**  
10月11日(土) 午後2時  
於：多磨霊園 救世軍墓所(七区一種五側一番)



**任官五年以内士官講習会**

7月1日(火)～3日(木)、YGC(山室軍平カレッジ)にて対面でおこなわれました。参加者は吉田慎也中尉、眞鍋嗣道中尉、眞鍋恵中尉、今年7月に再献身をした高橋暁子大尉でした。

1日目、杉並小隊・総合センターにて開催された「士官の心のケア講習会」に出席した後、夕刻から開会集会が開かれました。YGC校長ダニエル・テンブルマン・トウエルズ少佐が司会し、司令官ステイブ・モーリス大佐は「キリストの花嫁」と題し、コリント15:51～58よりメッセージしました。続いて証言会、夕べの祈りの時がもたれました。

2日目、3日目は、各講師より、「聖書学」「ファンダレイジング」「小隊の財務戦略～予算と決算」「教理：教会論」「グローバル戦略(コンパス)」「継続的な霊的形成とプロフェッショナル・ディベロップメント」の講演があり、学びを深める時でした。閉会集会では人事・教育部長添田美和少佐が司会し、書記長官西村保大佐補は「テモテニ 4:1～5より「時が良くても悪くても」と題しメッセージしました。各任地での恵みやチャレンジを分かち合い、神様から与えられた召命のすばらしさを再発見する3日間となり、心新たに任地へと遣わされていく時となりました。



**救世軍見解表明**

**社会道徳に対する救世軍の立場  
第18回「救世軍と国家」**

救世軍と国家についての見解表明

救世軍は政治的には無党派です。救世軍は政府や公務に関して影響を及ぼそうと努めることはありません。救世軍は国家とその機関と共に働く時、聖書の価値観を奨励するよう努めます。それは、正義、真実、慈しみ、公正、人権、平和などを指し、救世軍の宗教上の確信と実践の一部となっているものです。

救世軍は国家とその機関と共に働く時、聖書の価値観を奨励するよう努めます。それは、正義、真実、慈しみ、公正、人権、平和などを指し、救世軍の宗教上の確信と実践の一部となっているものです。

見解表明の背景と状況

救世軍は国際的なキリスト教会、慈善団体として、幅



広く、多種多様な、政治的、社会的面においての働きをおこないます。しかしながら、救世軍がどこで働くかに関係なく、イエス・キリストの福音を宣べ伝え、苦しむ人々にイエスの名において仕えるのが、救世軍の不変の使命なのです。

したがって、救世軍と「国家」との関係についての見解を考察することは適切です。ここでいう「国家」とは、特定の領土とそこに住む人々に対して政治的主権を維持する制度として定義されます。

救世軍の立場の土台となるもの

国家は、正義を確かなものとし、善をおこなうために、神によって立てられました。クリスチャンも教会も、共にその権威を尊重する務めがあります(ローマ13章)。それにもかかわらず、私たちはまず神の国を求めなければならない、と聖書は教えています(マタイ6:33)。聖書の価値観は、国家がそれを支持しない時でも、教会はそれを支持しなければなりません。

(続く)

**NEWS!!  
NEWS!!**

**各地のニュース!!**

**米国南部軍国音楽キャンプ**

救世軍米国南部軍国からの招待を受け、南部軍国の音楽キャンプ(Territorial Music Institute、略称TMI)に日本から高島瑠花青少年部准兵士(清瀬)、西村光輝兵士(杉並)、石田征慈兵士(泉尾)、立石栄祈兵士(神戸)が

**米国南部軍国音楽キャンプ(TMI)に参加して 証言**

杉並小隊 西村 光輝

ハレルヤ。私はアメリカ南部軍国でおこなわれたミュージックキャンプ(TMI)に参加しました。初めてのアメリカ、慣れない英語、そして受験期という多くの不安があり、参加するかとても迷いました。しかし、小隊の方や周りの方から「参加すれば絶対に良い経験になる」と勧められ、祈っていただいたため、それが参加するという決断の大きな支えになりました。

1日目には4つのレベルのバンドに分けるオーディションがありました。緊張で足が震えていました。今までの努力が報われたのか一番上のホルツ(Holz)バンドに入ることができました。バンドではレベルの高い曲に挑戦しましたが、周りの人たちは普通に初見で吹いていて、レベルの高さを思い知らされました。その中で吹くことはとても大変でしたが、表現の仕方や吹き方等とても学びになりました。ホルツバンドを指導してくださったハワード・エヴァンスさんの指揮から、ただ渡された楽譜をそのまま演奏するのではなく、曲に対する表現の大切さを知りました。

キャンプの中で一番苦戦したことはやはり英語でした。すべてが英語なので意味のわからない英語をずっと聞き続けるのはなかなか苦痛でした。その中でも自分で個人レッスンをお願いしたり、自分のわかる限りの英語で話してみたりと、努力し

参加しました。キャンプは米国ケンタッキー州アズベリー大学内で7月24日(木)～8月1日(金)、開催されました。このキャンプは25歳までの青年たちのために、霊的成長と様々な芸術分野のプログラムがあり、大学内の寄宿舎での生活となりました。参加者の証言は下段と16ページに掲載しています。

キャンプの成果を披露するコンサートは、南部軍国YouTubeチャンネルで配信されています。ぜひ「TMI2025」のライブ配信をご視聴ください。



コンサート配信QRコード

たことは大きな成果だと思いました。ファイナルコンサートの中で、スカラシップ授賞式があり、自分の名前が呼ばれた時は、何が起きているのかわからず大変驚きました。スカラシップにはいくつかの種類があって、私は海外からの参加者に与えられる制度で、来年もキャンプに参加できる資格を受賞できたことを嬉しく思います。初め、このキャンプのことを知った時「なぜこの受験期なんだ!」と思いました。しかし、神様の用意したタイミングは最善のタイミングであり、今年参加していなければこの恵みは受けられないものでした。神様の用意してくださった道を突き進み2週間の旅に挑戦した経験は、私の中で大きな恵みです。これからも自分1人で進むのではなく、神様に祈りながら歩んでいきたいです。最後にこの機会を導いてくださった司令官ご夫妻や、サポートしてくださった米国南部軍国の皆さんに、心から感謝します。



スカラシップ授賞式で

創立者 ウィリアム・ブース 大将 リンドン・バッキングラム(万国本営) 英国ロンドン) 日本司令官 ステイブ・モーリス(救世軍本営) 東京都千代田区) <https://www.salvationarmy.or.jp>

# 米国南部軍国音楽キャンプ (TMI) に参加して 証言

清瀬小隊 高島 瑠花

ハプニング続きの飛行機の乗り換えを経て、無事アズベリ一大学に着いたのは暗くなった頃でした。その時はまだ、生徒のいない静かな校内を歩きながら、始まろうとしているTMIに期待よりも不安の方が大きかったのを覚えています。そして、このキャンプで経験したお恵みを想像すらしていませんでした。

譜読みがあまり得意でなかった私は、できることはやっとなど、腹を括り挑もうとしていたオーディション会場で、抜き打ちで知らない曲を弾かせられるとなった時は少しパニックになりました。しかし無事終わり、Hallバンドの練習初日では、オーディション会場で話したポルトガルから参加した女の子と隣になりました。わからないところなどは教えてもらい、キャンプ最終日には涙で別れるほどの良い仲を築くことができ、とても恵まれた時を過ごせました。

エレクトイブ(選択科目)で選択したクリエイティブ・アート・リーダーシップのクラスでは、ベサニーさんというすばらしい先生に習い、各小隊で、クリエイティブなクラスや活動をどうやったら始められるか、企画から連絡手段など、またどうやったらクラスをリードできるか、接する姿勢や手順などを一から丁寧に学びました。特に日本でこのように専門的に学んだことがなかったので、とても刺激的で、今後どのように小隊と関われるのか、新たな可能性を学びました。特にクリエイティブ・アート・プロダクションという夜のイベントでは、大学構内にある劇場で、ダンス、演劇などを通して、賛美する様子を見て、救世軍の中にこれほどまでに才能あふれるユースがいて、実際に彼らがそれを使い、お恵みを賛美という形で返していることにとっても刺激を受けました。今回、バンドで参加した私ですが、これほどまでにクリエイティブアートのもつすばらしい力を感じたその夜は、忘れられない経験となりました。

最後に、このような機会をいただき、たくさんのお恵みをいただきましたこと、また、これを実現するために支えてくださった方々にお礼を申し上げます。



親しくなった友人たちと(左端が筆者)

神戸小隊 立石 栄祈

私が今回のTMIキャンプで印象に残った時間は、毎朝晩のお祈りの集会です。キャンプの期間は毎朝晩に全員が集まって、ワーシップソングを歌い、士官の方のお話を聞いて、各々の信仰生活や考えに集中してから、一日を始め、終えます。

朝の集会では、様々なレクリエーションを通じて、信仰について学びました。そのひとつが「シンプルシティ」というテーマです。レクリエーションでは、投げかけられるシンプルな質問について、間を開けず答え続ける(「犬の足は何本?」など簡単な問題で、躊躇するとアウトになる)ゲームをしました。マタイによる福音書6章25節の「思い悩みな」が題材になっていて、私たちが日々誘惑に負けてしまう中毒性のあるもの(食べ物、テクノロジー、所有することなど)を遠ざけ、シンプルに生きることを学ぶお話でした。

レクリエーションゲームの中で、私たちは質問に集中して、余計なことは考えず、シンプルに答えようと思いました。同様に、イエス様の教えに素直に従い、自分の目標から気をそらすものを避けることを意識することが大切だと学ぶことができました。ほかに、休むこと(安息日)、サービス(奉仕)、ファスティング(断食)、セレブレーション(祝うこと)、など、私たちの生活に大切な要素を毎日ひとつひとつ教えてもらいました。

晩の集会は、日没後、芝生の広がる庭にみんなで座り、音楽に耳を傾け心を静めることから始まります。キャンプには英語圏の人だけでなく、様々な人種や言語の人が参加していましたが、音楽や信仰のすばらしいところは、そういった全員が言語の壁を越えて、心を合わせられるところだと実感しました。誰かが真剣に祈っているときに、静かに隣に座り、時には仲間の肩に手を回して一緒に心を注ぐ姿は、本当に心が温まりました。

この朝晩の祈りや、出会った友人たちとのつながりを、キャンプの中だけで終わらせるのではなく、日常的な習慣になるようにしたいと思いました。



## 女性サンデー

10月19日(日)

きずな献金 2025 を献げます

(台湾の救世軍タイピン分隊での楽器購入プロジェクト「ワンダフル・メロディ」のため)

## 小隊候補生サンデー

9月7日(日)

## 士官志願者サンデー 10月5日(日)

士官志願者及び献身者祈祷月間  
10月1日~31日

(取扱支部)

発行日及び定価  
 発行日 毎月一日発行  
 福音版 毎月十五日発行  
 広報版 奇数月十五日発行

定価  
 福音版・一部 400円  
 広報版・一部 1000円  
 クリスマス特集号(十二月一日号) 一部 1000円  
 振替 〇〇一八〇五四四〇〇

発行兼 救世軍  
 印刷人 代表者ステイブ・モーリス  
 編集人 山谷 真

〒101-0051 東京都千代田区  
 神田神保町二丁目十七番  
 電話 東京(03)三三七〇八八一  
 印刷所 救世軍本営  
 印刷所 有限会社コーチ印刷